

## 環境活動団体票

だん たい めい 団 体 名	む こ が わ り ゆ う い き け ん 武庫川流域圏ネットワーク			
所在地	〒665-0062 宝塚市仁川高台1丁目2-25-204 山本義和方			
代表者	役職・氏名	代表 山本 義和		
	住所	—		
連絡先	TEL	0798-31-1544 0798-53-3273	FAX	0798-31-1544
	E-mail	mukogawaken.net@gmail.com/ white_god_rs@kif.biglobe.ne.jp		
	担当者氏名	山本 義和 白神 理平		
設立年月日	平成23年7月9日			
会員・構成員数	団体会員14団体、個人会員77人（2021年1月末現在）			
団体の目的	武庫川流域圏でのネットワーク機能を活かした各種情報の共有と発信を行い、川の治水と自然環境保全を目的とした活動。			
主な活動場所	西宮市、宝塚市			
主な活動内容	<p>武庫川流域圏で活動している個人・団体等の活動情報の共有化と連携を図り、協働的取り組みが可能なネットワークづくりを目指しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ HP や E メールを利用した各種の情報発信</li> <li>・ 武庫川の水辺の清掃と特定外来種オオキンケイギクの駆除</li> <li>・ 西宮市の津門川での水質汚染で失われた自然の再生活動</li> <li>・ 会員とゲストによる武庫川流域圏ネットワーク活動報告会</li> <li>・ 講演会などの企画 ・ 環境関連行事での講師担当やポスター展示</li> <li>・ 兵庫県主催の武庫川事業への参加</li> </ul>			
コロナ対策	開催イベントの自粛・人数制限、事前参加者登録、Zoom 利用、マスク着用、アルコール消毒、検温など			
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 武庫川河川敷お掃除会と特定外来植物オオキンケイギクの駆除活動。</li> <li>・ 第11回武庫川流域圏ネットワーク活動報告会(特別講演・一般講演)。</li> <li>・ 津門川での水質汚染からの自然再生に向けての種々の活動。</li> </ul> <p>10月の津門川での魚類生息調査（近畿大学、神戸女学院大学、西宮市、流域住民との協働作業）。ひと搏「共生のひろば」での発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域環境保全功労者（団体の部）として環境大臣表彰を受けました</li> </ul>			
団体の HP	<a href="http://muko.jimudo.com">http://muko.jimudo.com</a>			

読売新聞 2020年7月21日

# 津門川の魚 だんだん増

## 2018年モルタル流出で激減



●階段式の無道の段差を改善する工事が施された津門川（西宮市で）。●調査で捕獲されたアコヤカワムツ＝山本さん提供

津門川は、阪急線駅近くから今津港へ長3.5キロの2級河川。西宮北口駅付近にさ約1.4キロの堰が、住民や研究者らを受け、堰が03年を式魚道に改修。同年調査では、遡上し得るアユ、オイカワ、ヨウナなど10種類の魚がされていた。しかし、18年12月の山崎幹一郎六甲上

## 県「魚道 段差小さくし遡上促す

2018年12月に水が白濁し、魚が死ぬ被害が出た西宮市の津門川に、魚が戻りつつある。市民団体「武庫川流域圏ネットワーク」（武庫川ネット）の提案で、夏、魚の遡上を促す魚道の改修工事を実施。魚やエビ、カニなどの姿が確認されるようになった。関係者は「まだ回復途上だが、昔のように多くの魚や水生生物が見られるようになる」と期待する。（渡澤哲也）



西宮土木事務所、魚道上でできるよう階段式を改善する。事務所は、目を下流4か所を詰めた袋を流し、魚が袋の間を流れるのを試験的に。事後の7月、約20人が、上海にかけ

## 津門川魚類調査・夏の概要

期日：2020年7月2日（木）午後 晴  
場所・調査地点：津門川の阪急電鉄門戸神駅、西宮北口駅付近4地点  
調査メンバー：近畿大学津門川魚類調査グループ（細谷和海近畿大名誉教授）西宮市みどり保全課、ミニミニ水族館にしきた住民チーム（津門川の自然を守る会、公同幼稚園ほか）武庫川流域圏ネットワーク



その他 PR 等

私たち武庫川流域圏ネットワークは、環境省から 団体として「地域 環境保全功労者表彰」を受けることになりました。

会員皆さまの方の様々な活動や、自治体・企業・学校ほか数多くの団体や個人からいただいた、支援の足し算によるものと考えます。

おめでとうございます。  
ありがとうございます。

COVID-19 や気候危機など、地球からのメッセージも真摯に受け止め、意識はグローバルに、行動はローカルにこだわり流域圏ネットとして活動を継続いたしましょう。

